

長野市観光振興計画 概要版

令和4年度－令和8年度

長野市商工観光部観光振興課

1 計画の目的

長野市観光振興計画は、観光客に価値を提供するため、本市の観光が何を目指し、どのような取り組みを行うべきかを記載したものです。本計画に基づいた事業の実施を通じて、「**地域経済の活性化**」と「**地域コミュニティの活性化**」を目指します。（※現行計画の目的を踏襲）

2 計画の位置付けと期間

本計画は、「第五次長野市総合計画」の個別計画であり、それに示される観光振興施策をより具体化・実現化するために策定します。また、「長期戦略2040」等、その他諸計画と連携・調整を図ります。

計画期間：令和4年度（2022年度）から令和8年度（2026年度）までの5年間

3 現状と課題/今後の方向性

【現状と課題】

- 新型コロナウイルスや災害などから、本市の観光産業は大きな影響を受けており、それらに対応した施策を展開していく必要がある
- 新型コロナウイルス感染拡大後のウィズコロナ、アフターコロナ時代に対応する新たな観光スタイルへの対応が求められている
- 地球温暖化対策への関心の高まりの中、観光のあり方を環境配慮型に転換していく必要がある
- 市内の各地区ごとに観光の成熟度や実情が異なるため、コンテンツ開発や周遊促進等の施策はそれぞれの地区に合わせた方法で進める必要がある

【今後の方向性】

上記の課題を解決するため、今後の新しい観光の潮流を踏まえ、持続可能な観光、ウィズコロナ、アフターコロナ等に対応した観光振興を行っていくことが必要

4 観光振興の基本方針

①持続可能性を担保した観光産業への転換

SDGsへの対応や環境負荷の低減（地域資源の保護、ゴミ0、公共交通の活用等）に寄与する取組みを行います。

②新たな観光スタイルに対応した観光への転換

新型コロナ等による急速な環境変化などに対応した、ワーケーションや密を避けたアウトドア、サイクリングなど新たな観光スタイルに対応するコンテンツ開発を行います。

③人と人とのつながりを大切にした「ながのファン」づくりの強化

「旅マエ」「旅ナカ」「旅アト」での観光客と地域人材とのつながりの形成による「ながのファンづくり」を目指します。

④Z世代など若者の観光需要の喚起

本市観光資源の認知度は若年層において低い状態です。Z世代など将来の需要創出を図るため、SNS等の活用や、若者向けのコンテンツ開発を行っていきます。

⑤地域の成熟度に合わせて観光振興

各地区における観光の成熟度によって観光振興の力点が変わってきます。そこで、地区別に方針を定め、地区の実情に適した振興を図ります。

⑥インバウンドの回復を見据えた環境整備

ウィズコロナ、アフターコロナに求められる新しいコンテンツづくりと受入環境整備を行い、ターゲットに届く方法で情報発信を行います。

⑦DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進による観光サービスの提供

デジタル化やAI、ビッグデータなどを活用して、マーケティングデータの収集、ながのファンづくり、顧客目線での快適で魅力的な観光サービスの提供を行います。

⑧災害やコロナなど情勢の変化に対応した観光地づくり

観光を安定的に収益が上げられる産業にするため、災害後の適切な情報発信などのリスクマネジメントを強化します。

5 計画全体の構造

新計画は、4本の「重点政策」と、このうち1本目の重点政策「地域資源を最大限活かした誘客」に基づく「地区別方針」「実践プロジェクト」によって構成されます。

1) 重点政策

今後5年間で重点的・優先的に取り組む4本の「重点政策」を以下のように定めます。

重点政策1：地域資源を最大限活かした誘客

重点政策2：長野市の魅力を活かしたインバウンドの推進

重点政策3：オリンピックレガシー等を最大限活かしたコンベンションの誘致

重点政策4：快適で安全、スマートな観光を実現する基盤の整備

2) 地区別方針

重点政策「1 地域資源を最大限活かした誘客」に関しては、地域の状況に応じて適切に進めていくことが求められるため、「地区別方針」を設定し、当該地区の状況に応じた最適な政策推進を図ります。

3) 実践プロジェクト

「地区別方針」に基づき、ながの観光コンベンションビューローや各地の観光協会が主体となって、地区の観光関連事業者の支援を通じた観光コンテンツ開発を進め、魅力的な地域をつくる「実践プロジェクト」を実施します。

6 計画の最終成果指標

本計画が目指すゴールへの到達度を示す指標を設定します。これらの指標は、観光関連事業者、ながの観光コンベンションビューロー、各観光協会、行政がそれぞれの役割を果たすこと、特に観光関連事業者が良質な観光コンテンツ等を生み出すことで消費が生まれ、経済が活性化することで達成されます。

■経済波及額、消費額、宿泊者数、入込客数

		基準値 *1 (平常年)	目標設定の 考え方	R4年度 (ご開帳)	R5年度	R6年度 (中間年の目標)	R7年度	R8年度 (最終年の目標)
観光による地域への 経済波及額(億円)		784	一人当たり観光消費額・観光入込客数の伸び率に準じて上昇	1,008	645	807	823	839
一人当たり観光消費額 (円)	全体	11,991	基準値をベースに最終年度で5%上昇	12,111	12,231	12,351	12,471	12,591
	宿泊客	20,280		20,483	20,686	20,888	21,091	21,294
	日帰り客	6,621		6,687	6,753	6,819	6,885	6,952
市内宿泊者数	総宿泊者数(千人)	1,570	中間年度で基準へ回復、以降最終年度までに2%上昇	*2 1,414	1,390	1,570	1,585	1,601
	外国人宿泊者数(人)	103,599		50,762	77,181	103,599	104,635	105,671
観光入込客数(千人)	全市	10,706		*2 13,629	8,632	10,706	10,813	10,920
	善光寺	6,436		*2 10,945	5,156	6,436	6,501	6,565
	戸隠	1,482		1,176	1,329	1,482	1,496	1,511
	松代	545		328	436	545	550	556

*1 基準値は、平成29～令和元年度を新型コロナの影響のない平常年と捉え、この期間の平均値とした。

*2 R4年度の指標のうち「総宿泊者数」「観光入込客数(全市および善光寺)」については、同年に善光寺御開帳が予定されていることから、前回(平成27年)の御開帳時の増加分を加えた(宿泊客数は平成23～26年の平均値と平成27年の差であった203万人、入込客数は御開帳参拝客総数であった707万人をそれぞれ加えた)。

■満足度、認知度、リピート率、コンベンション等参加者

		基準値 *3 (R2年度)	目標設定の考え方	R8年度 (最終年の目標)
各地域の満足度(%)	全市	49.7	最終年度までに10ポイント上昇	59.7
	善光寺	46.1		56.1
	戸隠	56.4		66.4
	松代	46.1		56.1
市内観光資源の認知度(%)	善光寺	84.9	最終年度に90%	90.0
	戸隠	65.5	最終年度に75%	75.0
	松代	37.0	最終年度に50%	50.0
リピート率(%)		61.3	最終年度までに10ポイント上昇	71.3
コンベンション等参加者(人)		10,220	最終年度に12万人	120,000

*3 基準値は令和2年度の値とした。

7 重点政策

「総合計画の施策」や「観光振興の基本方針」との対応は以下のとおりです。またSDGsでは右記のゴールの実現を目指します。



1) 重点政策の全体像

総合計画との対応	政策	施策
施策1 観光交流促進 豊かな観光資源を活かした	政策1 地域資源を最大限活かした誘客 基本方針との対応 1 2 3 4 5	1-1 地域資源を活用した魅力的で多様なコンテンツの創出と流通促進
		観光コンテンツの提供体制の構築と広域連携
		1-2 地域を守り、未来へつなぐ観光振興
		観光を通じた歴史・文化、自然資源の保全と情報のシェア（価値の伝達と共有）
		観光における温室効果ガスの排出抑制
		1-3 コミュニケーションを通じたファンづくり
施策2 インバウンドの推進	政策2 長野市の魅力を活かしたインバウンドの推進 基本方針との対応 6	ファンづくり、周遊促進に向けたコンシェルジュ機能の強化
		長野市の魅力をつたえるコミュニケーション
		歴史・文化、アクティビティ等の地域資源を活用したコンテンツ開発
		冬季のコンテンツ開発
		広域連携による周遊コンテンツの開発
		外国人観光客が快適に滞在できる受入環境整備
施策3 コンベンションの誘致促進	政策3 オリンピックレガシー等を最大限活かしたコンベンションの誘致 基本方針との対応 2 3	ターゲット市場への情報発信の強化
		他市町村と連携した情報発信
		3-1 コンベンション誘致の強化
		コンベンション参加者への情報発信
施策1 観光交流促進 豊かな観光資源を活かした	政策4 快適で安全、スマートな観光を実現する基盤の構築 基本方針との対応 7 8	3-2 地域資源を活かしたフィルムコミッションの強化
		フィルムコミッションの強化とロケツーリズムの推進
		4-1 DXの推進による快適な滞在環境の構築
		快適な滞在を提供するためのマーケティングシステムの構築
		災害など緊急時の対応力強化
		安全な観光地づくり

2) 各重点政策の内容

重点政策 1 : 地域資源を最大限活かした誘客

基本方針との対応

1 2 3 4 5

1-1 地域資源を活用した魅力的で多様なコンテンツの創出と流通促進

(1) 地域資源を活かしたコンテンツ開発の支援

本市ならではの資源の活用、新しい観光スタイルへの対応、若者向け等に重点をおいたコンテンツ開発を支援します。

(2) 観光コンテンツの提供体制の構築と広域連携

コンテンツ販売体制の強化を図るとともに、広域連携による効果的な情報発信を行います。

1-2 地域を守り、未来へつなぐ観光振興

(1) 観光を通じた歴史・文化、自然資源の保全と情報のシェア（価値の伝達と共有）

歴史・文化、伝統産業、里山の景観など、地域の貴重な資産を次世代に受け継ぐと共に、貴重な資産を誘客につなげます。

(2) 観光における温室効果ガスの排出抑制

観光関連事業者等への普及・啓発等により、環境への負荷が低い旅行スタイルへの転換を促進します。

1-3 コミュニケーションを通じたファンづくり

(1) ファンづくり、周遊促進に向けたコンシェルジュ機能の強化

各案内所における豊富な知識や対応力を持ったコンシェルジュ機能の強化を図ります。

(2) 長野市の魅力をつたえるコミュニケーション

若者向け(主にZ世代)デジタルコミュニケーションの強化、来訪者との地域人材とのコミュニケーション促進に取り組みます。

重点政策 2 : 長野市の魅力を活かしたインバウンドの推進

基本方針との対応

6

2-1 長野市の特長的な資源を活かしたコンテンツ開発・環境整備

(1) 歴史・文化、アクティビティ等の地域資源を活用したコンテンツ開発

歴史・文化、アクティビティ等を活用し、外国人観光客に訴求するコンテンツの開発を支援します。

(2) 冬季のコンテンツ開発

ウィンタースポーツを楽しむ外国人観光客向けに、冬季に楽しめるコンテンツの開発の強化を図ります。

(3) 広域連携による周遊コンテンツの開発

関係自治体と連携し、重点ターゲット向けの広域周遊の観光コンテンツの開発を行います。

(4) 外国人観光客が快適に滞在できる受入環境整備

外国人観光客が本市を楽しんで周遊してもらうための多様なガイド環境の整備を行います。

2-2 ターゲットに届く効果的な情報発信

(1) ターゲット市場への情報発信の強化

新型コロナウイルス感染症収束後を見据え、重点ターゲット国との連携を図ると共に、動画配信などの情報発信を行います。
新型コロナウイルス感染症の収束後は、旅行博などに出席し、積極的なセールスを行います。

(2) 他市町村と連携した情報発信

サイクリングなどのテーマごとに、関係自治体と連携した情報発信を行います。

重点政策 3 : オリンピックレガシー等を最大限活かしたコンベンションの誘致

基本方針との対応

2 3

3-1 コンベンション誘致の強化

(1) コンベンション誘致やエキスカーションの強化

オリンピック施設等を活用した、コンベンションや学会、スポーツ、文化・芸術等の開催を支援します。

(2) コンベンション参加者への情報発信

コンベンション等で市内を訪れた参加者に情報提供を行い、滞在時間の延長や観光消費額の増加を目指します。

3-2 地域資源を活かしたフィルムコミッションの強化

(1) フィルムコミッションの強化とロケツーリズムの推進

フィルムコミッションの強化を図り、観光コンテンツに活用すると共に、ロケ地を訪れるファンが「ながのファン」となる情報発信等を行います。

重点政策 4：快適で安全、スマートな観光を実現する基盤の構築

基本方針との対応

7 8

4-1 DXの推進による快適な滞在環境の構築

(1) 快適に滞在できる環境整備

移動や買物等にDXを取り入れ、快適な観光地づくりを進めます。

(2) 快適な滞在を提供するためのマーケティングシステムの構築

ビッグデータの活用、顧客データベースなどマーケティングデータの収集等を行い、快適な環境を整備します。

4-2 災害に強い観光都市基盤の構築

(1) 災害など緊急時の対応力強化

危機管理マニュアルを周知し災害時の対応を共有すると共に、災害時の情報発信などのリスクマネジメントを強化します。

(2) 安全な観光地づくり

感染症対策への支援等による新しい生活様式に対応した観光地づくり、バリアフリー化等を進めます。

8 地区別方針と実践プロジェクト

	地区別方針	実践プロジェクト
善光寺・ 中心市街地	善光寺や宿坊など長野らしい観光資源が豊富にある地区であり、これからも長野市の観光の起点として本市観光をけん引する役割を担うことを目指し、観光資源を活かしたコンテンツ開発及び周遊を促進していきます。	●善光寺界隈・まちなか周遊促進プロジェクト 善光寺・中心市街の周遊を促進するため、様々な観光関連事業者と連携し、周遊促進コンテンツを開発するとともに、周遊を促す仕組みを構築します。
戸隠・ 飯綱高原	＜戸隠＞ 自然・歴史・文化等の資源を次代に受け渡し、新しい観光スタイルを確立させます。観光客と長期にわたる関係を構築する取組みを強化します。	●地域の自然・歴史・文化と調和した長期滞在観光の実現プロジェクト 長期滞在を可能にする仕組みを構築するとともに、リピーターを確保するために、戸隠の特徴を活かした観光コンテンツ開発を進める。
	＜飯綱高原＞ 自然やアウトドアを中心にコンテンツを開発し戸隠地区や他市町村とも連携し周遊を促進していきます。	●飯綱アウトドア観光推進プロジェクト 自然を活かしたアウトドアコンテンツ開発を中心に進め、戸隠や他地域への周遊を促します。
松代	250年にわたり栄えた城下町としての歴史や文化、松代温泉などの観光資源を活かしながら、観光産業の基盤を発展させるために、松代ならではの資源を活かしたコンテンツを充実させ、周遊を促し、観光消費額を増やします。	●宿泊客のまちなか周遊促進プロジェクト 松代荘などに宿泊する観光客がまちを周遊し、買い物や食事を楽しむことで地域の観光消費を増やします。
中山間地域	観光の力を活用した里山地域の風景や暮らしの維持を図り、これからの活用が期待される地域資源（アウトドアフィールド・里山の暮らし・文化・食など）の発掘・磨き上げ・発信に取り組みます。	●スローツーリズム推進プロジェクト 中山間地にある様々な地域資源を発掘し、磨き上げ、またそれらの観光資源を線で結び、観光客が中山間地を周遊する仕組みを作ります。